



TITLE:

東亞天文協會觀測部月報欄 (續日食報告號)

AUTHOR(S):

CITATION:

東亞天文協會觀測部月報欄 (續日食報告號). 天界 1936, 16(186): 485-490

ISSUE DATE:

1936-09-25

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/167336>

RIGHT:

東 亞 天 文 協 會
—(觀 測 部 月 報 欄)—

黃 道 光 課 通 信 (1)

幹 事 寺 町 忠 行

私が幹事の仕事をさせていただくことになりましたから、大變ながらく月報欄を休んでゐまして、實に申譯なく存じます。本月から、この課の通信に依つて、黃道光課の外貌を申上げてゆき度く存じます。

◎日食時の黃道光觀測成功

日食時の黃道光觀測に北海道枝幸に行かれました本課員本田實氏は、その觀測に成功され、日食當日曇天を見つめ、北海道各地の觀測陣や如何にとその成功を祈つてゐるもとに、*「アワキヒカリヲミトム・ホンダ」*の電報に接し、歡喜にひたりました。日食時の黃道光に就ては、今迄にこれに就て注意したものはなく、ただノールエ1の Tharrud 氏が、或は皆虧の時間が4、5分もあつて、長ければ見られるだらうと云つてゐるのみにて、かく觀測に成功されたことは、黃道光觀測の歴史を飾るものです。

◎東天の黃道光明るし

いつも、6月中に觀測のレコード樹立競走が行はれる東天の黃道光は、本年は日食や其の他種々の關係があつてか、觀測が遅れまして7月に入つて、18日、31日に本田君により、30日に寺町に依つて觀測され、相當明るく輝いてみられます。因に昨年の觀測レコードは寺町(6月1、2日)、本田君の(6月14日)です。

◎黃道光會議開かる

さきに急報等により報告されました黃道光會議は7月19日大津市柳ヶ崎、琵琶湖ホテルにて、ストラツトン、ロイツ兩博士を圍んで開かれました。そ

の内容は別報の如く甚だ有意義な半日を送るを得ました。

◎黃道光觀測の新計畫

黃道光會議に於てストラットン博士の述べられた意見に基き、内地より朝鮮に及ぶ同緯線と他の同經線が引かれ、新協同觀測計畫が樹てられんとしてゐます。詳報は何れ後便(急報)等に依り發表されることと存じますが、その折にはまたその線上に於ける新觀測者の出でられんことを望みます。

◎新人出でよ

黃道光課々員の現在の地理的分布をみるに、あまり有利な地位にはおかれず、2人3人と同緯線上近くにおかれてゐる有様です。この不利を補ふに緯度の益すに沿つて、緯度分布上有利な地點に新觀測者の出でられんことを望みます。かかる地に於ける方の觀測はどれ程に尊いことか。

◎九月の觀測可能日

9月中に於ける觀測可能日は下記の如くにて、また濠洲との國際同時觀測のときに當つてゐます。充分御活躍下さい。

曉東天 9月15日——29日 比較星 A.

宵西天 9月 5日——19日 比較星 C.

日濠協同觀測 9月7日——10月5日

觀測時刻 東天 3^h00^m 西天 20^h00^m .

◎7月末現在黃道光課員(順序不同)

淺野英之助	廣島縣廿日市町南町
笹部 榮一	中華民國漢口第3特別區大平街1號 東棉洋行
本 田 實	鳥取縣八頭郡八東村
中 野 繁	大分縣中津市一ツ松640
下 保 茂	東京府三鷹村 東京天文臺
田 端 實	臺北市永樂公學校
沓掛 七二	長野縣小縣郡青木村村松
松本 武男	臺中市有明町2丁目1
渡邊 恒夫	大分縣杵築町上町
重村地佳良	東京市牛込區市ヶ谷南山伏町1 土屋方
福井 實信	廣島市皆實町廣島高校 薰風寮
宇野 良雄	京都市上京區紫野宮西町13

窪田 繁夫 岡山市下田町 伊達孫四郎方
 富原 守清 沖縄縣首里市眞和志町2ノ22
 井上 直治 佐賀縣小城町小城中學校(物理教室)
 廣瀬永治郎 岐阜縣美濃町
 寺町 忠行 愛知縣西春日井郡豐山村
 南 米 班
 勝浦 茂雄 }
 大窪 文秀 } 栗原自然科學研究所
 武田 江 } ブラジル, カンボス・ド・デョルドン

流星課月例報告 (64)

小 槇 孝 二 郎

本年3月及4月に於ける観測者及観測数は次の様である。

観 測 者	観 測 地	3 月			4 月		
		回数	時間數	流星數	回数	時間數	流星數
本 田 實	鳥 取 縣 八 東				1	60	4
小 槇 孝 二 郎	和 歌 山 縣 金 屋	1	75	5	5	355	50
小 槇 和 枝	”				4	320	26
小 槇 茂 代	”	1	65	7	4	415	34
青 木 正 博	長 野 縣 上 諏 訪				1	120	20
大 窪 文 秀	南 米 ブラジル				6	460	24
宇 野 良 雄	京 都 市	1	40	1	2	150	8
山 田 才 吉	愛 知 縣 瀬 戸 市				3	150	11
吉 井 耕 一	金屋, 廣島縣竹原	7	715	83	8	1560	182

以上の外に大石辰次氏より流星の報告があつた。

今回は下記の3君が新観測者として活動することになったので紹介する。

長野縣上諏訪町大手町3丁目 青木正博 (本州中部班)
 静岡県志太郡吉永村吉永1368 大石辰次 (本州中部班)
 和歌山縣有田郡金屋 小槇和枝 (近畿班)

流星群の出現状況

4月の琴座流星群は吉井, 山田, 本田, 小槇(茂)の4氏及筆者によつて観測されたが, 其の出現数は以外に少く恐らく例年以下のものと想像される。去

る1934年以來この流星群の出現が或は可かり減少したのかも知れない。乙女座の火球は一昨年南米の勝浦氏によつて輻射點が決定出來たのであるが、本年は珍らしく新觀測者青木氏によつて20日夜見られた。又琴座群と同時期に認められるヘルクレス流星群は吉井氏によつて觀測された。其他に特筆すべき流星群は認められなかつた。

南米觀測者の活動

ブラジルの神屋、大窪兩氏から去年9月以來の多數の流星觀測を報告された。其の中には特に南極附近の空を注意されたものが若干あるが、著しい流星群は認められてゐない。只9月下旬兩氏が見られたアトリエ流星群 ($\alpha=84$ $\delta=-46$) は日本では全く觀測不可能のものであるだけ珍しく感じた。10月下旬の雙子座流星群は大窪氏によつてよく觀測された。

流 星 課 通 信 (3)

CIRCULAR (2) 發行

今春發刊された METEOR SECTION CIRCULAR の第2號は目下印刷中で、8月末に出來上り課員其他へ配布される豫定である。第1號は大阪に於て印刷せられ誤字があつたので今回は印刷所を京都に移し嚴重に校正がなされた。頁數20頁のもので主な内容は次の通り、尙この CIRCULAR は流星に關する研究紙として年3回位發行される豫定である。

望遠鏡の視野に入る流星—木邊成麿、流星の光度變化に就て—淺野英之助、流星佇立觀測—山崎幸夫、觀測法の研究—宇野良雄、流星課會—U N 生、議南半球の流星群輻射點—井上秀夫、アリゾナ觀測隊によつて得られた輻射點表、1932年獅子座流星期に出現せる大流星の實經路—小嶺孝二郎。

樽井に於けるペルセ群觀測

8月11日より17日まで南海沿線樽井の海岸に、協會の觀測指導のキャンプが張られ、毎夜快晴に恵まれ和歌山縣金屋より出られた流星課長小嶺孝二郎氏、京都より參加の宇野良雄、其他の諸氏によつてペルセウス座流星群の觀測がなされた。觀測の結果によれば最盛は12日曉にあり、出現程度は例年より稍貧弱な様であつた。(宇野生)

遊 星 面 課 月 報

東京の服部博氏、池田町の福井實信氏、大分の渡邊恒夫氏及東京五藤光學の小島修介氏から、木星と土星の見事な見取圖を受取つた。特に今回初めて報告された小島修介氏は、水彩畫の大きな見事な見取圖で感謝の外ない。今後も斯道に精進される事を願つておきます。服部氏は 20cm の偉力を發揮されて特に縞のディテール及白斑に注意されたが、慾を云へばも少し大赤斑の形に注意して頂きたかつた。土星の見取圖は渡邊氏と小島氏丈けなのは物足りない。10幅程度では無理かも知れぬが、15幅以上の所有者は是非見取圖を取つて頂き度い。見取圖合計下の如し。(順序不同)

	渡邊	安武	前田	坂井	西森	小澤	宇野	福井	小島	木邊	伊達	計
木 星	20	3	21	3	1	2	1	4	4	3	25	87
土 星	8	0	0	0	0	1	0	0	1	0	2	12

尚、伊達幹事は8月中病氣の爲一枚も見取圖を得られなかつた。

木星——其後大した變化無きも大赤斑は、渡邊氏の15幅によつて前部で細く後部で角張つて太い形を認められた。南溫帶に接しては居ず、大赤斑と南溫帶との間に白い部分が認められ、明らかに離れてゐる事を大部分の觀測者が認めてゐる。北赤道帶縞は非常に凹凸濃淡が甚しく、時に白帶がある事も認められる。

土星——觀測の好期となつた。木星に更つてどしどし記録をお送り下さい。

金星——金星も段々觀測に通して來たから協同觀測を望む。(E.D.) (1936.9.3)

京・阪・神支部と京星會・大阪天文研究会

第4回合同 淀・^{をぐら}巨椋池ハイキング

1. 集合日時 11月3日(祭) {京都方面 9時までに三條大橋 京阪前
大阪・神戸方面 9時迄天満橋 京阪前
1. 行 程 淀下車→淀大橋→いもあらひ→觀世→安田→巨椋神社→西目川→觀月橋解散、徒歩10キロ、風光明媚、萬人向コース。
1. 詳 細 京星會「星光」、大阪天文研究会「銀河」、大阪支部報にあり。

× × ×

大阪支部報 御希望の方は、大阪市南區安堂寺橋通1丁目西森紀久雄宛 郵券5錢を添え請求ありまし。

太陽課 黑點相對數報告 (1936年8月)

觀測者(觀測地)	松本(臺灣臺中高女)	久保(高知高等學校)	伊達(兵庫縣雲雀丘)	改發(神戸市關守町)	野口(大阪市北區)	前田(京都市下京區)	木邊(滋賀縣中里村)	杵掛(長野縣青木村)	清水(靜岡縣島田町)	大石(靜岡縣吉永村)	淺井(橫濱保土谷區)	森久保(橫濱市中區)	服部(東京市大森)	山根(東京市青山)	上野(東京市立一中)	千葉(岩手縣水澤町)
鏡徑耗	58	75	80	150	76	70	75	102	100	55	58	45	50	44	58	50
倍率	40	53	70	68	50	40	60	75	73	64	60	60	44	43	60	50
1	雨	曇	98	缺曇	曇	35	101	108	96	曇	105	50	104	旅忙	80	缺
2	"	"	曇	"	"	37	雨	曇	雨	"	忙雨	104	缺雨	忙雨	82	"
3	"	"	曇病	"	"	42	曇	"	"	"	曇	88	88	83	缺	"
4	"	60	"	55	79	41	67	101	32	58	曇	83	108	83	曇	77
5	"	79	"	75	76	51	70	缺	忙	119	109	95	忙雨	82	87	缺
6	127	曇	"	曇	92	67	92	92	103	86	119	93	93	95	45	86
7	139	100	"	"	雨曇	曇	曇	98	忙	120	曇	77	77	97	曇	75
8	89	105	曇雨	"	"	"	"	曇	雨	曇	曇	68	曇	曇	48	78
9	114	112	111	"	"	"	108	106	129	曇	曇	曇	132	"	72	缺
10	92	116	病	82	81	缺	126	113	126	曇	"	曇	132	"	缺	"
11	曇	104	"	缺	缺	95	112	152	152	曇	"	缺	118	109	101	91
12	"	123	"	104	101	88	99	缺	129	105	96	曇	162	104	缺	缺
13	79	126	"	108	87	76	71	91	120	95	曇	69	142	97	77	60
14	91	104	124	108	117	86	94	147	忙	100	"	91	172	111	95	82
15	101	118	病	99	曇	雨	125	曇	曇	82	"	105	曇	曇雨	曇	缺
16	曇	88	"	102	曇	62	67	"	曇	79	"	79	病	94	83	86
17	94	曇	"	曇	79	61	114	152	134	98	忙	缺	"	85	69	75
18	105	108	105	"	曇	108	117	134	83	"	"	61	缺	68	曇	缺
16	69	78	病	"	曇	94	92	77	58	"	雨	缺	108	62	缺	"
20	曇	56	"	"	43	"	曇	曇	忙	曇	忙雨	40	忙雨	曇	缺	"
21	曇	69	"	"	曇	"	"	"	忙雨	66	缺	曇	"	雨	"	"
22	74	69	"	"	"	"	"	"	忙	73	"	73	曇	96	缺	"
23	79	雨	"	"	77	75	66	92	曇	"	92	78	105	90	80	"
24	71	89	"	88	84	85	74	89	105	"	115	75	137	曇	曇	"
25	曇	94	"	99	曇	曇	雨	缺	93	雨	曇	曇	"	曇	缺	"
26	曇	雨	"	缺曇	87	90	112	曇	曇	"	"	70	"	忙	40	"
27	93	98	"	"	77	60	雨	97	曇	91	70	"	"	忙	51	"
28	曇	95	"	122	83	77	105	103	134	115	106	缺	172	82	83	107
29	雨	113	"	缺	95	80	105	108	忙	100	132	100	163	89	58	缺
30	"	109	"	136	91	87	119	137	170	缺	133	103	忙	99	70	85
31	忙	134	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"
日數	16	23	4	11	16	17	21	19	15	15	11	17	171	18	16	13
平均	93	99		97	84	65	95	109	121	87	106	82	132	84	76	82

●觀測報告は毎月8日までに到着するやう御送り下さい。